

「第3次名古屋市子ども読書活動推進計画（案）」
に対する市民意見の内容及び市の考え方

「第3次名古屋市子ども読書活動推進計画（案）」に対して貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。いただいたご意見と、それに対する市の考え方を公表します。

なお、ご意見の内容について、趣旨の類似するものはまとめさせていただいたほか、原文を一部要約し、また分割して掲載しておりますので、ご了承ください。

平成29年3月

名古屋市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習課

電話 052-972-3252

FAX 052-972-4178

メール a3252@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

実施結果

- ア 実施期間 平成28年12月16日（金）～平成29年1月16日（月）まで
- イ 計画(案)の配布場所 市民情報センター、区役所情報コーナー、支所 など
- ウ 提出状況 意見提出者数 17 人
意見件数 52 件
- エ 提出方法 郵送 8 人、 FAX 5 人、 メール 4 人、直接持参 0 人
- オ 意見の内訳

項目	意見数
計画全体に関すること	6件
家庭・地域に関すること	9件
学校等に関すること	24件
図書館に関すること	7件
関係機関の連携等に関すること	2件
その他	4件
合計	52件

市民意見の内容及び市の考え方

計画全体に関すること（6件）

番号	意見	市の考え方
1	<p>高校生の半数が1か月に1冊も本を読んでいないのには、正直驚いた。小さい頃からの読書習慣は、本当に大切だと思う。親も子も忙しいかもしれないが、わずかな時間でも読めるよう色々な取り組みに期待したい。</p>	<p>読書離れを少しでもくい止め、読書が好きな子どもを増やすために、関係機関が連携して、本計画の推進に取り組みます。</p>
2	<p>書籍離れが著しいこの頃だが、豊かな感性を育てるチャンスになると思うので、よろしく願いしたい。</p>	
3	<p>これからも子どもたちが生涯にわたる読書習慣を身に付けることができるよう、よろしく願いしたい。</p>	
4	<p>「ぜひ読書を！」と思っている。よろしく願いしたい。がんばってほしい。また、がんばっていきましょう。</p>	
5	<p>読書離れの原因は、子どもだけの問題ではなく、社会全体が忙しくなっていることにあると思う。だから、校内の職員だけで指導することに限界を感じていたので、公共図書館、教育委員会など、たくさんの機関が、読書のために一緒にがんばることは、とても心強く思う。ぜひ、長くいろいろな事業を展開してほしい。</p>	<p>忙しい現代社会において、読書活動を推進していくことは、容易なことではありませんが、子ども読書活動の重要性や意義についての普及啓発に努める等、関係機関の連携を一層深めるとともに、民間企業・団体とも新たに連携し、メディアも活用しながら、社会全体で子ども読書活動の推進に取り組んでまいります。</p>
6	<p>小学校中学年以降の子どもに効果的に本を提供すること、子育て中の大人、そうでない大人、社会全体に読書の大切さや、そのために子どもに読書時間や環境を提供することの大切さを啓蒙すること。社会全体が読書への意識を変える必要があると思う。特に第4章3・4などをメディアと提携するなどして進めていただけるとありがたい。よろしく願いしたい。</p>	

家庭・地域に関すること（9件）

番号	意見	市の考え方
1	<p>乳幼児健診で本を一冊プレゼントする。自宅に来てくれるメリットを生かし、それぞれ訪問する人がオススの1冊をその家にプレゼントする。とにかく本が家にある。そして訪問する人も自分のオススの1冊なので紹介にも気合が入る。（絵本リストもよいが、もう一歩踏み込んで、物があるともっといい。もちろん公費で行う。）</p>	<p>「はじめての本との出会い事業」では、絵本そのもののプレゼントは実施しておりませんが、3か月児・1歳6か月児・3歳児健康診査において、それぞれ対象児にあった本を数多く掲載した絵本紹介リストを配布しております。さらに希望する親子全員に、絵本の読み聞かせを通じてその魅力を感じていただく機会を設けております。今後もこの事業をより充実していくよう努めてまいります。</p>
2	<p>お家の人から本のプレゼントをする。今年のおすすめの本リストを保護者（小・中学生）に配布し、その中の応募カードを送ればその本のリスト中の好きな本が1冊もらえる。もらえて家にあるというのが大事である。</p>	<p>「読みたい本が見つかる図書リスト（仮称）」の活用等、家庭との連携を図りながら、取組みを進めてまいります。</p>
3	<p>「ファミリーデーなごや」での親子読書活動推進について、子どもだけでなく親も一緒になっての読書は理想的だと思う。</p>	<p>「ファミリーデーなごや」に来場する多くの親子を対象に、親子が親しめる本を活用するなど、親子で読書に親しむきっかけになるような取組みを進めてまいります。</p>
4	<p>生涯学習における親子読書講座は意義がある。親の方もあまり読書経験がない場合、子どもへのすすめ方がわからないと思う。</p>	<p>各生涯学習センターでは、親子で読書の楽しさを学ぶ講座等を実施しています。これからも様々な講座・事業の開催に努めてまいります。</p>
5	<p>親が読書する姿を見せることが、重要と思う。</p>	<p>保護者をはじめ周りの大人の読書に対する姿勢が、子どもの読書活動に与える影響は大きく、家庭における読書環境を整えるためにも、保護者等への読書の意義の啓発は、大変重要と考えております。</p>
6	<p>いちばん身近な大人である親が、まずは本を手にとって読んでいる状態を、できるだけ子どもに見せること。それを見たら、家族で会話が生まれる。親学講座の講師（司書）も言っていたが、「リビングでスマホばかりいじっている親を毎日見ていたら、子どもは本に向かっていかないと思う。」と、確かにそう思う。</p>	<p>「『親学』における親子読書のすすめ」や保育所・幼稚園で取り組む「保護者が読み聞かせの大切さに気づく機会の充実」など、様々な機会を捉え、啓発活動に取り組めます。</p>

7	<p>読む本を探したくなるような本棚が、家庭（できればリビング）にあること。本棚がリビングにあることは効果的で、大きくなくてもよいので「我が家の本棚」がリビングの当たり前の風景としてあるとよい。図書館や学校で借りてきた本をリビングに置くのは、本当におススメ。家族全員の好きな本が並んでいて、それは図書館へ通う1～2週間周期で内容が変わっていくので、他の人が借りた本が気になり、ついつい手が出る。また、それぞれの読書の進捗状況や好みもよくわかる。</p>	
8	<p>せっかく子どもが本を読んでいるなら、ジャンルの偏りには、できるだけ口出しをしない。「本を読む」習慣があるだけでも素晴らしいことなので、素直に褒め、その本の何がそんなに魅力的なのか素人っぽく聴いてあげたらよい。読むこと自体が習慣化されていれば、それは絶対的な強みとなるし、そのうち、きっといろいろな本に手を出すようになると思う。せめて親は、認めてあげたい。</p>	<p>保護者をはじめ周りの大人の読書に対する姿勢が、子どもの読書活動に与える影響は大きく、家庭における読書環境を整えるためにも、保護者等への読書の意義の啓発は、大変重要と考えております。「『親学』における親子読書のすすめ」や保育所・幼稚園で取り組む「保護者が読み聞かせの大切さに気づく機会の充実」など、様々な機会を捉え、啓発活動に取り組みます。</p>
9	<p>会員制なり、方法は検討必要と思うが、学校の図書館を地域に開放できないか。</p>	<p>生涯学習開放として一部の小学校で実施しておりますが、実施にあたりましては、学校教育に支障のない範囲内で、周辺における学習施設等の配置状況、各学校や地域のそれぞれの状況、予算の状況などを総合的に勘案しながら、慎重に検討する必要がありますと考えております。</p>

学校等に関すること（24件）

番号	意見	市の考え方
1	<p>各校違いはあると思うが、我が校の図書室が小さい気がする。</p>	<p>学校図書館の面積は様々ですので、各校の事情に合わせ、さらに学級文庫の整備等を進めていきます。</p>
2	<p>学校図書館に最新書籍のタイムリーな設置をお願いしたい。</p>	<p>学校図書館の蔵書数を増やすなど、取り組みを推進していきます。</p>

3 8	学校図書室に学校司書を置くことで読書活動の推進につながると思う。学校司書の配置を要望する。(6件)	
9	学校図書館に司書の配置を何卒お願いしたい。15年程前に埼玉県の中学校に勤務していた際に、図書室に司書が常駐しているのを見てきた。図書室の飾り方、本の見せ方、本探しのお手伝い、調べ学習の授業のお手伝い、図書委員会の運営(お手伝い)、心のオアシス、何をとってもやはり専門家の仕事はすごかった。	専門的な知識に基づいた支援によって、児童生徒の読書活動の一層の充実や学力の向上を図るために、学校司書の配置を進めます。
10	私が関係している小学校では、学校司書が入っただけで図書室を利用する子どもが増え、読書意欲も上がってきていると感じている。子どもの読書活動を上げるために学校司書の配置はとても重要だと考える。	
11	週1回保護者(図書ボランティア)の読み聞かせがある。読み聞かせをきっかけに本を読んでいる。でも、高学年になることで、学校から本を借りる事が少なくなり、学校司書がいれば「おすすめの本」として子どもも学校から本が借りやすくなりよいと思う。	児童生徒の読書活動を一層推進するために、現在各学校では様々な形での地域のボランティア等の協力をいただき、読み聞かせやブックトーク等の開催をしています。専門的な知識に基づいた支援を行うために、学校司書の配置を進めます。
12	先日テレビで見たが、図書館が福袋を出していた。それぞれテーマがあり、そのテーマに合った本が数冊袋に入っていて、そのテーマを好きな人が選んでゆくといったもの。学校図書館にもそのような提案のできる司書がいると、子どもたちに興味のある提案ができ、本を読む癖が付くと考えられる。その他、テーマ別ランキングなどができるのも、司書の価値があると思う。以上の理由から各学校に司書がいるとよいと思う。	各学校においては、図書委員会等が中心となって図書紹介や読み聞かせなどの活動を行っています。専門的な知識に基づいた支援によって、児童生徒の読書活動の一層の充実を図るために、学校司書の配置を進めます。

13	<p>小学校への学校司書の配置を強く要望する。校務分掌としての図書館担当も、普段の授業準備や部活動指導等に時間を取られ、図書館内の整備や読書活動推進のための時間を充分に取ることができない。また、司書免許や知識のないまま担当していることが多く、子どもへの効果的な手法が取れているとはいえない。</p>	<p>学校図書館の充実には蔵書・人材の双方の充実が必要であると考えております。専門的な知識に基づいた支援によって、児童生徒の読書活動の一層の充実や学力の向上を図るために、学校司書の配置を進めます。</p>
14	<p>学校図書館の整備充実のためには、学校図書館に人を配置することは必須である。しかも、アルバイト、パート等では不十分で、フルタイムの正規職員として全校に常駐し、専門の研修を継続的に受けられるようにする必要がある。</p>	<p>専門的な知識に基づいた支援によって、児童生徒の読書活動の一層の充実や学力の向上を図るために、学校司書の配置を進めます。またその際には専門性の向上に向けた研修等の充実を図ります。</p>
15	<p>読み聞かせは、幼児・小学校低学年だけでなく、高学年にも聞かせる機会があってもよいと思う。それによって本に興味を持つのではないだろうか。</p>	<p>児童生徒が読書に対する興味関心をより高めることができるよう、校内の取組みを推進するほか、市立図書館で実施する行事や学校訪問など様々な機会を捉えて、幼児や低学年児童だけでなく高学年児童へも、年齢に合った内容の本の読み聞かせや、ブックトーク（本の紹介）やストーリーテリング（語り）などの様々な手法を用いた働きかけを一層充実させてまいります。</p>
16	<p>子どもたちの読書習慣を付けるため、読み聞かせのよさをもっと啓蒙して、学校でも積極的に読み聞かせやブックトークを実施してほしい。</p>	
17	<p>「朝の読書」のように、生活時間の中に読書の時間を確保するように、学校でもゆとりを持ってほしい。</p>	<p>児童生徒が読書に対する興味関心をより高めることができるように、本を読む機会を増やす取組みを推進していきます。</p>
18	<p>学年末に、その生徒が1年間で読んだ本のタイトルや冊数、好きな本を記入できるプリントを渡すと、記録になり読書への意識も上がると思う。それを6年分ファイルにして卒業時に記録と思い出として渡したら、中学校での読書習慣につなげていけるのではないかと。</p>	<p>各学校においては、学校の教育活動を通して様々な読書活動や読書指導を行っています。読書記録の充実等、児童生徒が自ら本を読みたいと思えるような働きかけは重要であると考えております。児童生徒が読書に対する興味関心をより高めることができるように、本を読む機会を増やす取組みを推進していきます。</p>

19	<p>「読んで聞かせてもらおう」幼児期から、「自分で読む」ことへ移行していく低学年の時期に、担任の先生が「読書は楽しい」ということを伝えるようなたくさんの「しかけ」を作ることは、特に重要だと思う。読書通帳、読み聞かせ、読み聞かせした本のタイトルと作者名を紙に書いて教室に貼る(可視化)、ブックトーク、教科書に載っている物語の絵本版を見せる。教科書よりも絵が大きく、ダイナミックでインパクトがある。</p>	<p>各学校においては、授業のみならず「朝の読書」や読み聞かせ、図書委員会での図書紹介等の活動を促進しています。低学年においては読み聞かせ等の活動は特に重要であると考えております。今後も児童生徒が読書に対する興味関心をより高めることができるように、本を読む機会を増やす取組みを推進していきます。</p>
20	<p>クラスメイト同士でおすすめの本を紹介し合う。学年が上がると、大人にすすめられた本は「読まされている」感が強く、避けたくなる。でも、同級生からすすめられた本は、不思議と手に取ってみたいくなる。授業では、おすすめ内容を紙に書いて教室に貼るだけではなく、発表があった方が必ず聴くし、より効果的。娘は、本嫌いの男子が分厚い「ハリーポッター」を読んでいて衝撃を受け、それから娘も読み始めた。逆に、自分のすすめた本をクラスメイトが読んでくれたという経験は、これ以上ない喜び。自己肯定感がすぐ上がる。</p>	<p>各学校においては、授業のみならず「朝の読書」や読み聞かせ、図書委員会での図書紹介等の活動を促進しています。高学年においては図書委員会での図書紹介等子どもの自主的な活動は特に重要であると考えております。今後も児童生徒が読書に対する興味関心をより高めることができるように、本を読む機会を増やす取組みを推進していきます。</p>
21	<p>中学・高校なら、図書室の本の選書に関わらせてあげるとよい。中学校勤務時、図書委員会担当の先生が、図書委員(選抜)を選書の場に連れて行っていた。全校生徒に事前アンケートを取って、それを参考に選ばせる。図書委員にはもちろんすごい経験だし、実際に同級生が選んだ本が学校に置かれるというのは、「図書室にどんな本を買うかは(一部は)自分たちで決めてもいい」という読書への期待感が持てるすてきな取組みだったと思う。可能な学校は取り入れてみてはどうか。</p>	<p>本の選定については、各学校の実情に応じて行われているところですが、児童生徒の興味関心も重要な視点であると考えております。児童生徒が読書に対する興味関心をより高め、読書の楽しさを味わうことができるような選定とともに、蔵書数を増やすなどの取組みを推進していきます。</p>

22	<p>全市の全小中学校の全クラスに学級文庫として50冊ずつ配る。(概ねクラスの人数の倍、全員が読んでいても、なお選べるぐらい。少ないと効果はすごく下がる。)内容は、小学低・中・高、中学と分かれており、「なごやっ子のおすすめ100冊」や、図書館や教員などで考える、書店の売れ筋ランキングなど、とにかく子どもが手に取りそうなものを中心に考える。5年か10年に1回入れ替えていけるとよりよい。</p>	<p>学級文庫は、学校図書館の蔵書を定期的に入れ替えて設置されております。児童生徒が自由に読書に親しむことができるよう、学校図書館の蔵書数を増やすなど取組みを推進していきます。</p>
23	<p>授業の単元として(生活科・国語科)教育課程に図書館利用を入れ、必ず行う授業にする。その中で貸出しカードを作る。または、持ってくるすると、図書館の利用も結構伸びる。(よく校外学習でやってみると、初めてカードを作って、その後も図書館を使う子が10人中1、2人はいる。)</p>	<p>「名古屋市教育課程」の国語の授業において、図書や読書を扱う授業を位置付けております。国語のみならず、各教科の調べ学習において学校図書館を活用しております。今後もさらに学校図書館が有効に活用されるよう、学校図書館の環境整備を推進していきます。</p>
24	<p>「読書感想文・感想画コンクール」は、とにかく全市でやっており課題図書も読まれ、強制的に本に親しむので、きっかけになるよい取組みである。</p>	<p>各学校において、名古屋市学校図書館研究会が実施する「読書感想文コンクール」や「読書感想画コンクール」に積極的に参加しております。今後も「本の帯コンクール」等、児童生徒が読書活動への意欲を高める取組みを推進していきます。</p>

図書館に関すること(7件)

番号	意見	市の考え方
1	<p>図書館での読書通帳の配布は、よいと思う。大人にも配布してほしい。</p>	<p>読書通帳の取組みにつきましては、幼児から中・高校生、また小さなお子さんの保護者の方など、幅広い年代でご利用いただけるような形式で名古屋市独自のものを工夫して作成し、実施していきたいと考えております。</p>
2	<p>図書館での読書通帳の配布について。碧南市の図書館で通帳やパスポートの取組みを見た。ユニークで楽しい取組みだと思う。</p>	

3	<p>中川図書館の本の福袋や、鶴舞中央図書館のPOP コンテスト、各図書館の利用者も巻き込んだ本の紹介やビブリオバトルはよい取り組みである。</p>	<p>各図書館とも、子どもから大人までの幅広い年代に向け、ビブリオバトルや本の福袋のような本と人の出会いを演出する魅力ある取り組みや、POP コンテストのような司書を身近に感じていただけるような取り組み等、様々な取り組みに一層努めてまいります。</p>
4	<p>図書館の子ども向け講座の充実をお願いしたい。0歳の頃から図書館の子ども向け各種講座には、よくお世話になってきた。特に、天白図書館の乳幼児向けの読み聞かせには、工作タイムがついており、お気に入りだった。これからも続けてほしい。天白児童館の「絵本に出てくる料理やお菓子を、読み聞かせの後、親子で作って食べる」企画は大好きで、すごく贅沢な企画だった。(約10年前にやっていたが、今は分からない。)</p>	<p>子どもが読書習慣を身に付けるために、乳幼児の頃からの親への働きかけは大変重要です。図書館では、おはなし会を始めとする行事・講座等を通して、親子双方に対し、読書活動の意義や読書活動の楽しさを発信し、読書への理解の促進と家庭での読書活動の充実に引き続き取り組んでまいります。また、児童館においては、現在も乳幼児とその保護者への読み聞かせや、絵本に登場する食べ物を作るイベント等を実施しております。引き続き、子どもの読書活動を推進するための取り組みを行ってまいります。</p>
5	<p>図書館において、中高生向けコーナーの充実をお願いしたい。乳幼児・小学生向けコーナーの充実ぶりに比べ、中高生は置いてきぼり感が否めない。部活や学習や遊びに時間を取られ、最も読書から離れていきやすい年代の子たちを図書館に少しでも呼び込む工夫がもう少し欲しい。ライトノベルばかりでなく、以下のような本を増やすのはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映画やドラマなどの作品の原作本 ・人気ドラマのノベライズ本 ・国語の教科書に載っている作品特集、あるいは、その著者の別の作品 ・話題の読書好き芸人が、テレビで紹介した本ベスト10 ・雑誌（ティーン向けの雑誌がもう少しあってもよいと思う。) 	<p>多忙な中学・高校時代は、最も読書から離れていきやすい年代である一方で、心身ともに大きく成長し、読書によって豊かな知性・感性が育まれる重要な時期でもあると考えます。各図書館においては、職場体験などの機会にこの年代の子どもたちの意見を聞くようにし、それを参考にしながら、読書や図書館に誘う様々な取り組みを工夫し、サービスの充実を図ってまいります。</p>

6	<p>夏休みの小学生対象図書館大使は継続してほしい地道な活動。息子が小1で体験した時、図書館のお仕事見学・お手伝いだけでなく、子ども（小学生）が子ども（乳幼児）に読み聞かせをするのが、すごい経験だった。まだ、あまり知られていないと思うので、もっと夏休み前にアピールしてもよいと思う。</p>	<p>第2次計画における「子ども図書館大使」の取り組みでは、参加した子どもたちがその後も図書館に来館し職員と親しくなるなど、より図書館を身近に感じてもらうことができました。第3次計画においては、図書館での体験活動を「なごやっ子読書ノート」を完成させた児童への特典の1つとするなど、より多くの児童に同様の体験をする機会を広げるよう、形を変えて取り組んでまいりたいと考えております。</p>
7	<p>図書館やナディアパークのお父さん向けの本の読み聞かせ会などはよい取り組みである。いかにして行かない人を行かせるかが問題である。</p>	<p>子どもの読書活動の推進には、保護者や先生など子どもの周囲の大人の理解と協力が大変重要であると考えます。普段本や図書館に関心のない方にも関心を持っていただくきっかけとなるよう、図書館内における読書推進にとどまらず、「ファミリーデーなごや」や地域の子育てイベント等に出向いて読み聞かせや本の楽しさを伝えるなど、様々な機会を捉えて積極的に啓発活動に取り組んでまいります。</p>

関係機関の連携等に関すること（2件）

番号	意見	市の考え方
1	<p>団体貸出による支援はぜひ継続・充実をしてほしい。送料無料でたくさんの本を借りられ学校現場として大変助かっている。</p>	<p>学校の授業で利用する本については、学校図書館の充実が最も重要なことと考えております。市立図書館においては、配送貸出サービス「学習支援図書セット貸出」「特別支援教育資料貸出」や、学校の要望に応じて司書が本を選び貸し出す「団体貸出」など、資料提供を通じた学習支援・読書支援を今後も一層充実させてまいります。</p>
2	<p>将来的には学校の授業で利用する本を区の図書館で借りる時に、本をネットから予約し、それを区の図書館から学校へ配送するシステムがあれば、図書館の本をもっと学校が活用できるのではないか。</p>	<p>学校の授業で利用する本については、学校図書館の充実が最も重要なことと考えております。市立図書館においては、配送貸出サービス「学習支援図書セット貸出」「特別支援教育資料貸出」や、学校の要望に応じて司書が本を選び貸し出す「団体貸出」など、資料提供を通じた学習支援・読書支援を今後も一層充実させてまいります。</p>

その他（４件）

番号	意見	市の考え方
1	活字に親しむことは、生涯学習の中で最も基本となるもの。読書の基礎を早い時期に育てるためには、まず身近なところに本があること。とりわけ貧困家庭の子どもは深刻である。「子どもの貧困対策」の中に、本に触れる、自分の本を持つということを入れてほしい。	子どもたちが、身近に本に触れられる環境を得られるよう、関係機関が連携して、本計画の推進に取り組みます。
2	おもしろい本がすぐ手に取れ、時間があれば（他にやることがなければ）必ず読書するし、好きになっていく。とにかく「身近に本を！」	
3	名古屋の子どもが楽しく本に親しんで、本が読みたくなる一つのアイデアとして、幼稚園、保育園、小学校低学年、または高学年でもいいが、自分で本を作って、本の内容も自分で考えて、好きなデザインと内容にして、本の形を作って体験してみる、という自分による、自分のための、自分の本企画はどうか。	幼稚園・保育所・学校・図書館等での読書活動のひとつとして、今後の取組みの参考にさせていただきます。
4	不読者の割合が小学生で悪化していることについて。市内の小学校では、ほとんどの学校で朝の読書タイムを実施しており、1か月に1冊も本を読んでいないということは考えにくい。調査を実施する時にもう少し丁寧な説明がされることを期待する。	各学校の実情に応じて様々な取組みがなされている状況を踏まえ、子どもの読書の実態がより正確に把握できるよう、調査方法等について検討してまいります。